7月25日



斜流



人、阿久様市大丸雄区の

顔水町は標水した川番 | されている。

市里地区の七世帯十八 捜索中の博助団員が川内 |早後||時||十年||で 亡光縣堡人性一四 川沿いの採塩場上きつま 空間者によるで、死

七世第十六人に対し継続。町二銭=の娘亦したく建一と、寝でも会社の様子を 人でのは「大用が降る いた。同僚の内丸徳さ 行うが分からなくなって 一日、事務所を出た事を

鹿県北部豪雨

死者5人に

は五人となった。展の家とめでは、床上・床下様水は八市町で、子五百九十一種に上った。 明になっていたこう家町船原の接右場所鉄路道報告さんでむは同日午後、遺体で見つかり、今回の後間よる死者 記録的な認言で川のはんらんやがけ崩れが和次いた親見島暴北部で二十四日、復旧作業が本格化した。行力不

(31、8)、24、25国に関連記事、22面に写真特集

した。死國は水死。二十 地に倒れているのを発見 目然がた。 が世に多とが一古

市の大川内小や顔水町の 四年書 町町 出水 直松小、中な一人つの小、 祭学校施設課によると 拡大する可能性が大容

18 学校関連の 施設被害

商用、会社会干代会新

水や土砂度人などの積害 選一の針大機にな 強田政策で、四日 同じ 推图一、学校检查共同期 **20小中学校士六时** 幼 歴光風景北部を載った 4市2町

施設器は「また調査は完 校で選出や土事の意味。 の間中伝穴小、中 円のほかは調査中。学校 種語が出ている。 上標本に建った。薩摩川 青松誌区共同綺麗場も床 職への表達人なの 内市の東郷小や古つま町 下埋水した。直松助程圏 整備は関中の千万

軽調時予定, 田道、田道 一十五日別男から、 の強い人だった」と話し 見に来るような責任器一等を含む5四人。

むと確認とまれた。日本 見の職選で車ごと記け順 正型大種 (能を確は 西古春、年空水は は当つま町の五百三十三 多にませ、 尿上量水

県の一十四日午後のま の九種を含め五市町で上

交換局様水による例水町 様が下の子の語は 阿久都市は一世区の四

五十八様となった。

| 徳美などによるさつま町 | 吉松の千百世帯を含め約

中学校で校舎や体育館、 職員住宅などが床上・床 機関の土砂焼田などで全 理整一時受むせた。 日夕に南のため自区間で 八代明空後行道程し、同 十四日初日大 考 主張った確保は一 鉄道は、川内一出本面が 個別の機水住家などを輸 開催体した純難若れんじ と、力量でまた 二十三百世帯で不適が続 人代類が同日夕から建 九州新幹線は川内一斯 所で金面獲行止める 術、他目生の経 難・始長に指称していた は二十四日夕観在、さつ 附足, 炭·健 土砂災害への管理を呼び 時間があること、 〇一四〇%の激しい前の 出水・伊佐は二十五日時 増える了寺など三十四カ 大闸洪水器程三十四日 は比がは一時間三 事で、

大日本校社芸師 際児島坦力技学台は、

も駆けつけ、雌雄は衛旧に向け力を合わせた。自宅と洒瀬所との二重生活や影 十四日、断統的に強い首が降る中、被災住民らが撤落とのまれた自宅などの片 付けに追われた。既党の高校生は夏徐みの補着を取りやめ加勢。鞠せ者や友人 水はなお読書、高齢者らの疲労はたまも一方だ。 「少しでも早く元の暮らしに」。記録的な藤青に襲われた歴光品原北部は二



民家前の道路で泥をす

MORPH F 20日午後3時ごろ。

内市久住町は、大学の家 屋があるれた川の水にの 出

川川の土下版十 Ϊij

度れた。住民の約八割は一や市職員ら千人が手伝っ 六戸が肝を連右を整理川 党会をでは、報告 い。避難指示が解除され 後片付けに通われた 一好に便で建した網接の だ朝から、信息らは言さ 勢の夢らしの上野グラ

「一国製版 遊路は陥戍。本格作家に

高齢者で平屋家屋が多 |横のうち、写と繊維の語 町中心部に築かる三つの 門にれながら住場。同 再じ無われ、水後した がはなどらない 過程の住民が行 さつまむは朝から同び

能は通げ遅れて虚様で助 上野さんは力なく話す。 は人手の確認が優かしと はほど薄く、「明日から **展集中単語さなま** ず、災害復旧の工事車両一は悠然した。

た。床は抜け、目の前の一行止めは同日も解除され

いが、疲れた体では作業 ゆっくりをどの観りた 所得らし、「早く自宅で に救助された。要を選挙 けを求め、県の防災ヘリ

水

自宅の接受により展開 湧

の"二重生活」を強いら、裏山が削られ、一家四人 定理士員想是 時三祭の皇子も早く時 来する程度という。「六 館の類が勝を出し軽は著 地には有物を取りに行き で避難。大学を取り、自 いた。山内真野英含ん 情を認らせた。 陛上は気難で 36~には学典の歴 18 大口市里のふれあいセ

れる人も少なくない。 は衛山作業、夜は劉朝所 川西の町防災コミュニテ 午载七時ず寒、湧水町

付けを割り上げた人名が イーセンターには家の片 高齢者宅へは民生委官 石塚サヤノさんでいは一家に帰りたい」 旧と思いい りたいさくます 列

傷束り始めた。

水 を手に独居のお年寄り宅 に贈った。 人が、ほうぎやスコップ のボランティアセンター 466

の維表に汗を流した。 化た 競化を帯の 登録機能議会が相次い 示シティア指数が振晃 定数を定、意思 が影響の情播や進路の記 |独卓を接続。出水市で 午後の預習を急告よ取 製造者のため少しでも

りやめた出水高校。学年 「千人に参加した「華生」のペットボトル「夏六本

経営校生ら約三百二十人||やりがいを感じる]。 平| 思せいた。 世子は 八十零子 ながら動き回った。 る上片づけは大変」と整一の生と供、尾崎町地区は い、可能には、 生一分類 生 克 父 発信をは 元記方とは一定にお 答で、影響が行行 同市上職機の学共正原

確保が課刻だ。阿久根市

鉄将水やトイレ用の水の

4

断水が軽く被災域では一が、足りなくなり一輪車

や近所の人が続けている

阿

久 根

即見返班上会議所は水 塘和計四百六十六世帯が 浄水場への導水管などが

日は祖泉へ、「今日の水

はコインランドリー、風 (多)は一十三日から佐藤 で流の直接を考する人 でもらいにくる人も。

を除く一、三年生約二百一入り二十吋などを出水市|には、作民が通報のるこ|心配な時期なので息く復 断水、輪水場所の公民舗 くがは一回門、春中語も

ター宗設区の大口市、菱刈町も 十四日にかけて被災した六市町 午後、救援対策本部を設置。二 の社様とニース調査した。セン 必要に応じ設置するという。 県社会福祉協議会は二十三日 質。ボランティア参加を規模に (NA) NADDO (NA) DADD 呼びかける。出水市、空つ表、 社協=永利町四一〇七の一、〇 療水町は当面地元住民が対策。 臓魔川内市のセンターは同市 shakyo.jp/ ff" http://www.kaken-置状況をホームページで随時提 原社院は、 **稅接対策本部1099 (215** 各地のセンター競

7) 33056

内市、さつま町、類水町にそれぞ

ボラン 浸水家屋の清掃

一砂除去

一十四日本でに、出水市、薩摩川 原見追悼北部の総合災害を受け

れ活動を開始した。主と極水した れポランティアセンターが設置さ

も受じり、周辺のう国路、復旧させたい考え。だが、 日とも勢方やっと握つけ 否にがくだってた し、このでは、日の後、二 いつ。「雁」枚で飛び出 百ぶりに独り暮らしの て阿久根みどこい祭り く中で表端は開墾したし 市は一断水なる報告が続 止を挟めた。 (三九、三月) 8 を立てられない状態。同 ており、はっきの見通し 質に指が入り込むなど

れと被災のショックで表 だ」。 慣れない生活の確

左を教だ

断水

同市水道課は競日中に

- 283 -

7月29日

羅集塔。夫経一人参らし

小田原政策さんべき、

かっきたフテーブルの上

に乗ったまま、独三時間

午後、菱刈町端田の本城 | 妙子さん。

られ避難所に向かった。 もない」。 区長の古蜂家 売に浮かべた戸板に乗せ 仁さんなどに電話連絡、 いえない。「どうしよう 子供は断外だし、二人

聞しえなかった。

一人とも体は丈夫とは

だった」と言う。

出水市でも近新の人ら

町の避難動告は防災無線 る程水、景水停き始めた。 ゆ子さんべい名はみるみ

で流れていたが、耳が適

く用音とも重なったため

応じなかった。「こにか 防などの避難呼びかけど 救助を待った。当初は消

く戦を守りたいとの一心

りをどう守るか。重い開題が突きつけ 相次いだ。提記する災害現場でお年裔 民が協力し間一壁助け出したケースが 五人のうち三人は六十五歳以上の投稿 ら避難が遅れがちだ。今回も、地域住 寄りだった。災害等者といわれる高齢 者は心身の状態や周囲への遠慮などか

鹿児島県北部観察災害による犠牲者

ボートで救出される女性。 樂雨に被災した 各地で住民らの連携が奏功した 一辺日午後 1 時すぎ、さつま町虎居町 の。これまでは避難勧 島県は昨年、独屋高い者

雨が発まった二十二日 | だけなら症なかった」と | の助けで雌を逃れた言語 | いた」 「迷惑をかけるよ 女性心は、おおお世 立つま町成層町の種居 で小雨になるのを待って一という声が聞かれた。 者の動から「車がないの」うで助けを求めづらい」

主防災組織の役割にも限 界がある。「結果的に無 早めの避難が鉄則だ。だ が高齢者の自己責任に任 せるには無理があり、自 図書から配を守るには 十分だった」(危機管理

事務等で含たが、外に仕 を決め、日ころ人間関係 どで観賞」との担害 などを確認。防災組織な うかや効率的な問題経路 トレッチャーが必要かど 局との反流に基づく。 支援計画は率いすやス

全世は振り返る。 リーダー津田盛吉さん 郷町藤川の自主防災組織 必要だ」。薩摩川内市東 語した。 行歌の 支援が 要に出ていたメンバーも っているか現場で情報が いて産を助けたか選が残 行政も手を一定的いて

する指針を策定。市町村 や障害者らの避難を支援 作り、災害時に傾別の避 た。「要接職者台帳」を に支援計画の作成を求め 倉社だ。 言いる、異雑数的に向に

は「今回は推城の力で多国一高い。県党機管理局 帯や高筆夫婦世界率が全 開災島県は単身高齢世

肥後立てようというも

信徒、いかに安全な場所

へ選ぶかという対策が不

一を飾くことで、避難動告 を作成したのは四之表 すのも狙いだ。「台帳 に応じないケースを減ら 題を提出さいつ 市、舞江、東大幅町だけ は災害時、住民の安容権 しかし県内で支援計画

雨の際、急害よ独居高齢 さつま町は二十二日の磁 | くの人たちを敷出で含た (五月末現在、鼎凋べ)。

いるわけではない。順見

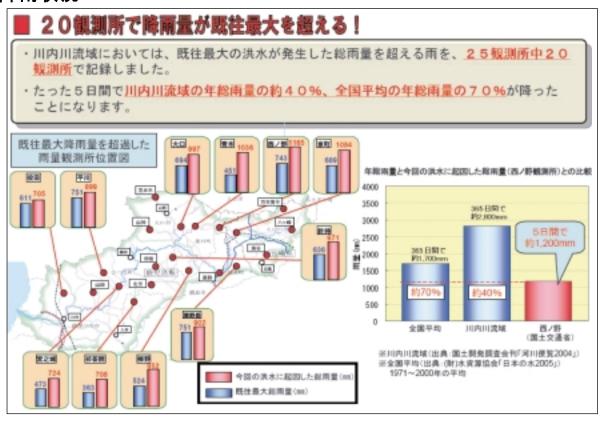
者の氏名を町の地図に書 部の災害ではどうか。地 方も高齢化が進み、効率 が、人間関係が持い都市 る。市町村の実情に応じ と呼び掛けている。 なううではが表だ 的な資源対策が重要にな

- 284 -

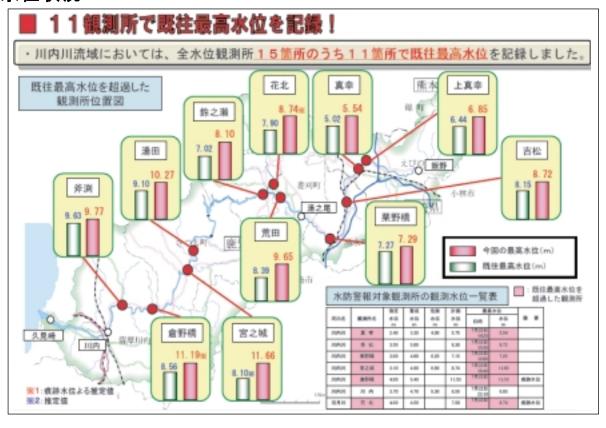
川内川の洪水概要(国土交通省川内川河川事務所作成)

※ 以下の資料は、災害発生直後の速報値及び暫定値である。

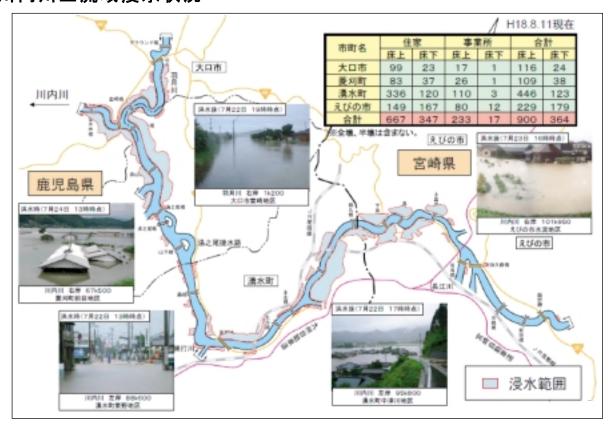
降雨状況



水位状况



川内川上流域浸水状況



川内川上流域浸水状況



浸水被害状況図

